

開催日：令和 6 年 3 月 7 日(木)

令和 5 年度外部評価委員会 講評

I 総論

本プログラムは令和 5 年 7 月に採択され、令和 6 年度より本格的な活動開始となっている。そのため、今年度はいわば準備期間として、カリキュラムの作成や講義収録、セミナーの開催といった活動が行われた。この短期間に各大学がカリキュラムを整備した事については高く評価でき、今後も引き続き取り組んでいただきたい。

初年度ということで成果に対する評価ではなく、今後の事業の取り組みに関して留意していただきたい点を中心として以下のような各論的な講評とした。

II 各論

1. コースの変更と課題

インテンシブコースは以前まで数回セミナー等に出れば受講できていたことから、社会人も受講者数に含むことができていたが、今回からは半年かけて、講義やセミナー等を受講しないとコース履修にはならない。そのため、インテンシブコースは今までのように数を増やすことは難しいかもしれない。文科省も「正規コース主体」とのことであるため、今回のプランで最も注力すべき点は正規コース参加者数を伸ばせるか否かであると思われるので注力していただきたい。

2. 東北がんプロの周知活動の必要性

東北がんプロについて、非常に良い取り組みが長年行われているが、中身がどういったことなのか、関わった講座は多くあるにもかかわらず、耳に入っていない。良いプログラムを作っても人が集まらないという状況を避けるためにも、医療従事者・非従事者問わず社会全体へのアウトリーチ活動を積極的に実施し、裾野を広げていただきたい。

また、長年の積み重ねから得られた成功事例等を前面に押し出し、取り組みを周知する活動を検討いただきたい。

3. 今後の取り組みについて

がんプロに関わる様々な業種を巻き込み事業を進める方向性も考えていただきたい。例えば福島県では行政と患者団体連絡協議会が協力してシンポジウムなどを行っている。実際にがんサバイバーは高い関心を持っている。そうした関心の高い方々を取り込んでいけるような活動をしていただきたい。

4. 医療専門人材の資格状況と教育改革の必要性

現在の東北・新潟圏内の医療専門人材の資格状況は心許ない状況となっており、特に放射線治療医・病理医が少ない。そうした現状を踏まえ、不足人材に目を配った教育を実行し、バランスの良い人材を育成・配置できるような教育を検討していただきたい。

5. 人材育成と数値の管理の重要性

この取り組みでは、確実に人材を育成し、人材の確保を行うことが重要である。それを実行に移すためには、数値のチェックは非常に大切である。例えば今回の場合、すでに令和6年度の入学者が把握できているはずにもかかわらず、報告が行われていない。今後はそういった点にぜひ気を配っていただきたい。

外部評価委員長 八重樫 伸生